

大正五年四月六日第三種郵便物認可大正十四年二月二十五日印刷納本(毎月一回一日發行)

# 哲 學 研 究

第十卷 第三册  
第八百號

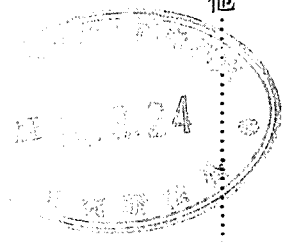
大正十四年三月一日發行

教育方法の原理……………文學士 伊藤猷典

時の原始的樣態に就て……………文學士 務臺理作

形態性論(フオン・エーレンフェルズ)……………文學士 岩井勝二郎

卒業論文題目、其他……………



京都帝國大學文學部  
京都哲學會

## 京都哲學會規則

第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス

第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス

第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ

一、毎月一回研究會ヲ開ク

一、毎年春秋二回公開講演會ヲ開ク

一、毎月一回雜誌『哲學研究』ヲ發行ス

第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文學部内ニ置ク

第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク

一、委員(若干名) 京都帝國大學文學部哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ

一、書記(一名) 委員會ニ於テ囑託ス

第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得

學校、圖書館、教育會、其他ノ團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會スルコトヲ得

第七條 會員ハ會費トシテ年四圓四拾錢、前後二期ニ分チテ前納スベキモノトス

第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得且ツ雜誌、『哲學研究』ノ配付ヲ受ク

第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

## 京都哲學會役員

### 委員

文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士	文學博士
伊藤	植田	狩野	小西	高坂	澤村	高瀬	田邊	千葉	朝永	西田	野上	波多	深田	藤井	松本	務臺	米田	文學博士	文學博士	文學博士
典	藏	直喜	重直	正顯	專太	武次	邊元	胤成	三十郎	幾多郎	俊夫	精一	康算	治郎	三郎	理作	庄太郎	文學博士	文學博士	文學博士

# 前 號 目 次

教育方法の原理……………	文學士 伊藤 猷 典
カントに於ける transzendentaler Gegenstand 及び „affiziert werden“ とに就て……………	文學士 木 村 素 衛
物理的空間の實現……………	文學士 戸 坂 潤

會 告

一、本會へ入會希望者ハ京都市西洞院七條南内外出版株式會社内京都哲學會宛テニ規定ノ會費(前表紙裏ニアリ)御納付ノ上御申込被下度候  
 一、會員ニシテ轉居入退會等(編輯事務以外ノ一切)ノ事務ハ内外出版株式會社内京都哲學會へ御通知被下度候  
 一、會費ハ振替口座大阪發〇六六三番、内外出版株式會社内京都哲學會宛テニ御拂込被下度候  
 一、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介ノ新刊書、寄贈雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候

京都帝國大學  
 文學部内 京都哲學會

註 文 規 定

◎ 會員にあらざる購讀者の御注文及び廣告に關する件は内外出版株式會社へ御申込下され度候  
 ◎ 本誌の御注文はすべて代金郵稅共前金にて御送り下さるべく候  
 ◎ 振替貯金にて御送金 (振替大阪三二九五番三九三一番東京三九三一番)内外出版株式會社宛に願上候  
 ◎ 前金切れの場合に帶封に「前金切」の印章捺捺致すべきに付直に御拂込下され度候  
 ◎ 特に請求書及領收書等を要する場合は郵券參額御送付下され度候

定 價

冊 數	冊 定 價	郵 稅
一冊	金四拾錢	金壹
六冊(前金)	金貳圓四拾錢	金壹
十二冊(前金)	金四圓八拾錢	金壹

廣 告 料

一頁 金參拾圓 半頁ハ取扱不申

大正十四年二月廿五日印刷納本  
 大正十四年三月一日發行

第百八號 第十卷 第三册  
 京都帝國大學文學部内

不許複製  
 禁 轉 載

編輯者 京都哲學會  
 右代表者 伊藤 猷 典  
 發行者 大谷 仁兵衛  
 印刷者 須磨 勘兵衛  
 印刷所 内外出版株式會社印刷部  
京都府西洞院七條南入  
 京都市北小路通新町四丁目

發 行 所

京都市下京區西洞院七條南

内外出版株式會社  
振替口座 大阪三二九五番  
 東京三九三一番

本社 京都市下京區西洞院通七條南  
 出張所 東京市京橋區加賀町十番地  
 販賣所 東京市神田區錦町一ノ一  
 内外出版株式會社

賣 捌 所  
 (大阪) 盛文館 三文社  
 (神戸) 寶文館 川瀨書店  
 (京都) 共盛社 大盛社  
 (東京) 東京堂 東海堂 北隆館  
 上田屋 至誠堂

文學士 小林一郎 著

最新刊

# 法華經と日蓮上人

四六判五百三十頁  
ポプリン美装  
定價金貳圓八拾錢  
書留送料金廿七錢

信仰は凡ての力の本である。日蓮上人の生涯はよく之を證據立て居る。上人の生涯を知ることには、現代の凡ての人に取つて最も大なる力となるであらう。上人は自ら法華經の行者を以て任じた。上人を知らんとするには是非とも法華經を知らなければならぬ。法華經の中に説かれたことは大乘佛教の精髓である。大乘佛教の何たるを知らずして法華經を知ることには出来ない。本書は凡て此等の問題について著者の信する所を極めて自由に叙述したものである。著者は何れの宗派の信者でもない、唯だ法華經と日蓮上人とを信する者である。此書によつて眞の信仰の貴いことを知る人が出来るならば、著者の本懐は之に過ぎぬ。既に日蓮上人を知つた人にも、まだ知らぬ人にも是非一讀を勧めたい。(著者)

東 京 外 出 版 株 式 會 社  
東 京 神 田 錦 町 一 番 九  
東 京 東 區 五 四 七 番 七  
東 京 都 西 河 院 七 條 南  
大 替 三 九 一 番 一  
本 社

東 京 販 賣 部

(大正五年四月六日)大正十四年二月二十五日印  
第三種郵便物認可(大正十四年三月一日發行)每月一回(一日發行)

哲學研究 第百八號

定價金四十錢

郵 資 錢 金